

# 科学

✉ kagaku@asahi.com

## サモア津波最大9メートル

### 早大調査 教育、被害軽減か

南太平洋のサモア近海で9月に起きた津波で、主な被災地の津波の高さは最大9メートルだったことが、早稲田大の柴山知也教授（海岸工学）らの調査で分かった。

柴山さんたちは10月末から11月上旬まで、サモアと米領サモアを調査。米領サモアでは最大で8・97メートルの津波が来

襲、斜面をさかのぼり海水は最高で標高20・39メートルまで達していた。サモアの津波の高さは最大8・12メートルだった。津波の高さは、04年のインド

洋大津波のときのスリランカ南部と同程度。当時、柴山さんが調査したスリランカ南部のハンバントタは、津波の高さが5・7メートルで死者は約4千人に達した。今回のサモアと米領サモアの死者は計200人。人口密度や地形が違い単純比較はできないが、サモアの犠牲者は限定的だった。

サモア住民の聞き取り調査では、津波がサンゴ礁の浅瀬にぶつかり白波が立ったのを見て「津波だと思って逃げた」という声が多かった。柴山さんは「インド洋大津波以降、津波教育が充実し、津波の予兆があれば逃げる、という原則が守られたと思う」と話している。（長野剛）



津波で破壊された集落の集会所。前面の海にはサンゴ礁が広がるが、幅が500メートル程度と狭く、逃げ遅れた9人が犠牲になった＝サモア南部、早稲田大学提供